

青空保育たけの子のあしあと

- 2008年11月4日 「青空保育グループ虹」として親子でのプレ保育を週1回スタート
2008年12月18日 「青空保育たけの子」と改名する
2009年2月14日 「こどもの時間」自主上映
2009年4月10日 青空保育たけの子入会式（創立日）
2011年10月より 米沢市への移動保育開始
2012年11月22日 特定非営利活動法人青空保育たけの子設立総会
2013年4月4日 福島県に特定非営利活動法人青空保育たけの子登記
2014年4月1日 認可外保育施設として山形県米沢市に届け出、同年受理

●保育内容について

開園日 月～金（土、日、祝日、年末年始お休み）

〈どんぐりコース〉	時間	料金	一時保育
1歳児	9時～14時半	27,000円	3,300円
2～5歳児	9時～14時半	22,000円	2,200円

- ・福島からの送迎費は無料
- ・どんぐりコースの保育時間表記は送迎時間を含まない保育時間です。（水曜日は12:00まで）
- ・春、夏、冬の長期休みがあります。（一時保育可）

〈たけの子コース〉	時間	料金	一時保育
1歳児	8時～17時半	48,000円	4,400円
2～5歳児	8時～17時半	36,000円	3,300円

- ・たけの子コースの保育時間表記は送迎時間を含みます。 ・長期休み中も保育があります。

その他の費用

- ・延長保育料（1H 600円）
- ・年間費用 教材費 10,000円、施設維持費 10,000円、給食費 3,000円、
利用会員費 1,000円（保険代 800円1人分含む）or 正会員費 3,000円（保険代3人分含む）
- ・特別講座等の場合、実費あります。 ・兄弟割引あります。

●保育方針

～自然の中で五感をみがき生きる力を育み、その子らしさを大切に、大人も子どもと共に成長する～

- *万物を成す「木・火・土・金・水」の五元素で遊びます
- *幼児のための環境教育「森のムツレ教室」で自然と遊びます
- *わらべうた、絵本の読み聞かせ、詩の朗読で聞く耳を育みます
- *食農教育で野菜作り・味噌作りを通して育て食べる喜びを得ます

- *一人ひとりの学びの物語（成長の記録）でその子を見守ります
- *自分で考え自分で行動できる子を育みます
- *自然を感じ豊かな感性を育みます
- *異年齢の仲間と一緒に遊びます

◆わたしたちは 2007 年 3 月に神奈川県藤沢市で活動している「幼児グループつくしんぼ」（『泥んこで風とあそび街を歩く一屋根のない「つくしんぼ」保育の日々』）との出会いがきっかけとなり、福島市でも園舎のない自由な保育をしたいという有志 7 人が集まり、2008 年 11 月から週 1 回のプレ保育を経て、2009 年 4 月に正式に創立しました。プレ保育時の賑わいはどこへやら、最初はたったひとりの園児からの出発でした。5 月から年長児が転園して来たり、保育者のお子さんが同行したりと、小さいながらもなんとかスタートし、3 年目の春からは新入園児も入れて 6 人以上が在園する予定になり、認可外保育施設として福島市に届け出を出せるという矢先、震災による原発事故が起きました。アンテナの高い人達の集まりだったので、危険を素早く察知し、新入園児も含めたすべての園児が県外に一時的にしる避難したのです。

その前に、なぜ認可外保育施設を目指したのかということ、地域柄、何か社会的に信頼できる枠組みの中に入っていないと園児が集まりにくいということがありました（プレ保育の経験から）。立ち上げたばかりの時、保健所の子ども担当の部署に話しをしに行きましたら「園舎がない」というと「まったく理解できません。まずは 6 人になってからきてください」と言われたことが忘れられません。そんなことから、まずはこの地域で社会的に認められるには 6 人以上になったら、認可外保育施設として届け出を出す、ということを決めていたのです。

放射能の影響で震災後の 2011 年 10 月から山形県米沢市に通っているのですが、2 年半後、当初お世話になっていたところを出なくてはならぬ困ってしまいました。しかし幸運なことに、知人のついでで現在の古民家をお借りすることにできました。そして、念願であった認可外保育施設として届け出を出すことができました。

園舎を持つことになった理由のひとつには、米沢の冬はとても厳しく、園舎がないと子どもたちと安全安心して過ごせないという現実があり、結果として園舎を持ち、認可外保育施設への後押しをすることになりました。

今回の無償化に関しては、園児のほとんどの親が多かれ少なかれ働いていたので、ほぼ対象になったことと、対象外のご家庭は米沢市への避難者で住民票は米沢市に移していたため、米沢市の多子世帯に対する援助の対象となり、保育料に対する補助が出ることで、格差が生まれやすくなることはなかったのです。

地域の社会性、行政の取組等により、何が一番ベスト・ベターなのかは個々に事情が異なるので、様々な選択があるとわたしは思います。